令和５年度　全国学力・学習状況調査における高萩市の結果

高萩市教育委員会

１　はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年から小学校第６学年、中学校第３学年を対象として、毎年実施されています。令和５年度は、教科に関する調査は、小学校調査は国語及び算数、中学校調査は、国語、数学及び英語を実施しました。また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施しました。調査の目的は、以下の３点です。

①　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

③　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

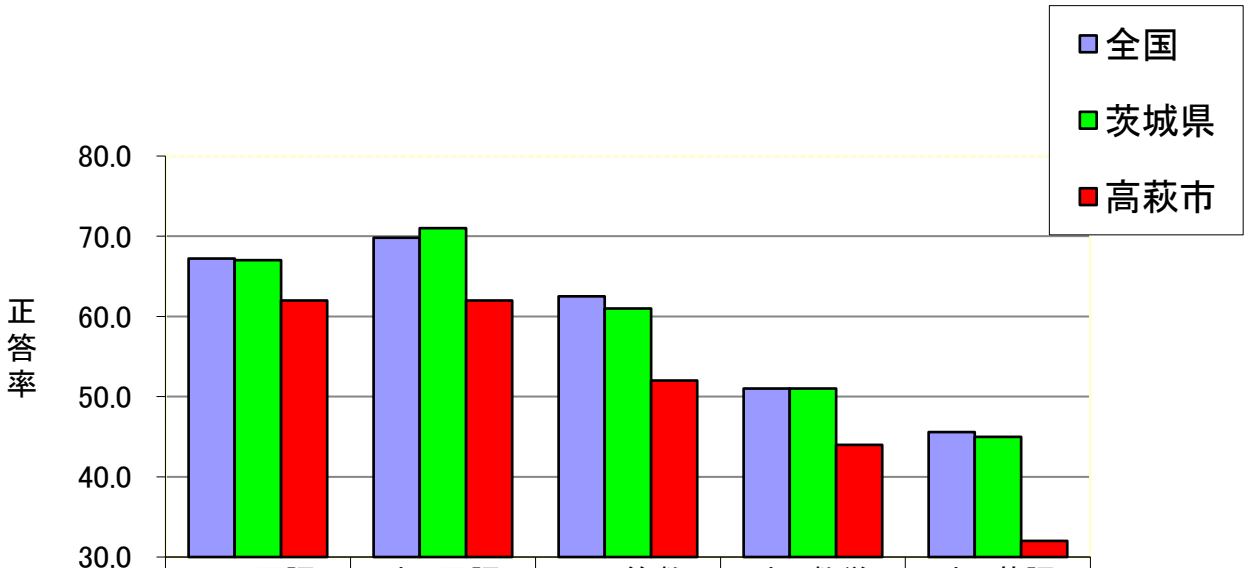
これまでの調査を通して、児童生徒の学力の定着・向上には、学校での教科指導の充実はもとより、子どもたちの生活習慣や学校環境も大きく関わっていることが明確になりました。

高萩市教育委員会では、学校、家庭、地域が互いに連携し、学習指導、家庭教育、地域とともにある学校づくりを通して、健やかな萩っ子の育成を推進していきたいと考えます。

このことから、以下のねらいで全国学力・学習状況調査結果を報告するものであります。

> 健やかな萩っ子の育成について、学校と家庭、地域が一体となった教育改善につなげるため保護者及び地域に向けて、高萩市の全国学力・学習状況調査結果を報告する。

２　高萩市の全国学力学習状況調査の結果、傾向、課題、今後の対策



	小6国語	中3国語	小6算数	中3数学	中3英語
全国	67.2	69.8	62.5	51.0	45.6
茨城県	67.0	71.0	61.0	51.0	45.0
高萩市	62.0	62.0	52.0	44.0	32.0

（１）傾向と課題

【小学校国語】

○「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 3.7％上回った。学校の米作りの問題点について、グラフやカードから分かる問題点とその解決法について、条件に合わせた文章を書く問題である。グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書くことを選び、伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫することができていたと考えられる。

●「文章の種類とその特徴について理解しているかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 13.5％下回った。文章の特徴について捉える問題であるが、調査方法を提案している文章であると捉えてしまい、調査で明らかになったことを整理して説明している文章であることを捉えることができておらず、提案する文章や説明する文章などの種類とその特徴について理解することに課題がみられた。

●「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 13.9％下回った。質問したことが、相手の活動の予定や話の内容について、より具体的に知るものであることを捉えており、自分の理解が正しいかどうかについて、相手に確かめるためのものであることを捉えることができていないと考えられる。

〈指導にあたって〉

・日々の授業の中で、学習指導の改善を図る必要がある。話合いの場面では、話合いの目的や方向性を検討し、内容を踏まえた上で、互いの意見を整理し、様々な視点から自分の考えをまとめる学習過程を大切にしていく必要がある。物語などを読む際には、登場人物の相互の関係や様々な表現が読み手に与える効果、優れた叙述、暗示性の高い表現などに着目して読むことを指導していく。

・書くことについては、書く相手や目的に応じて、自分が書いた文章を読み直し、読み手にとって分かりやすい文章になっているか、自分の伝えたいことをより明確にしているかなど、文章を整えることができるように指導していく。

【小学校算数】

○「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を上回った。この問題では、伴って変わる二つの数量について、表からの特徴を読み取ることが重要である。椅子の数が１脚ずつ増えると、高さが６㎝ずつ高くなるという規則性を見付けることができていたと考えられる。

●「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と考え方を式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 20.2％下回った。日常生活の問題を解決するためには、場面を解釈して数量の関係を捉え、式を用いることができるようにすることが重要である。ここでは、示された場面の数量の関係を捉えることができず、示された数値から立式することはできても、正しい計算の結果を求められなかったり、条件に合う記述ができていなかったりするなど基礎的・基本的な知識・

及び技能の定着に課題がみられた。

●「「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 13.8％下回った。この問題では、示された表から、データの特徴を捉え、必要な情報を読み取ることができるようにすることが重要である。示された表の合計欄から、運動した時間の合計が 30 分以上の日数を読み取ることができていなかったと考えられる。

〈指導にあたって〉

・算数においては、立式はできるが正しく計算することができない、式の意味を説明することができないなどの、基礎的・基本的な知識及び技能の不足がみられる。数量の関係を捉え、問題の解決のために式を用いることができるようにするためには、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法や、考え方を図や式に表したり、式から分かることを言葉で説明したりするなどの活動を取り入れるようにする。

・伴って変わる二つの数量については、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすること。データの活用では、示された表から、データの特徴を捉え、必要な情報を読み取ることができるようにしていく。

【中学校国語】

○「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 2.0％上回った。目的や場面に応じて質問をする内容を理解することができていた。インタビューの前に準備したメモが、星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にするために、インタビューを通して知りたいことを検討して整理したものであることを捉えることができていたと考えられる。

○「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 1.5％上回った。文章を読んで理解したことを、既存の知識や理解した内容と自分の考えを結び付けて考えることができていた。ここでは、「落胆する」とは、「がっかりすること」、「力を落とすこと」などの意味であることを理解していたと考えられる。

●「文章を読んで理解したことなどを知識や経験を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 18.0％下回った。文章を読んで理解したことや、考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりすることに課題がみられた。文章から自分が着目したところを抜き出し、これから自分がどのように本を読んでいきたいかについて具体的に書くことはできているが、読書に関する経験や知識に触れていない解答が多くみられた。

●「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 18.1％下回った。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がみられた。「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く必要があるが、解読の仕方の説明を書くことができていないなど、正答の条件に合った文章を書くことに課題がみられた。

〈指導にあたって〉

・文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章に書かれている内容を理解する

ことにとどまらず、自分のもっている知識や経験を結び付けることで、理解したことや考えたことを具体的で明確なものにしていくことが大切である。そのためには、文章を読んで理解したことと自分の考えや経験を比較したり、関連付けたりしながら解決策や改善策を考える場面を設定するなど、主体的に文章を読むことができるようにすることが大切である。また、国語の学習が読書活動に結びつくような指導をすることも大切である。

・レポートなどの調べたことや考えたことを伝える文章を書くことについては、伝えたいことが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、自分の考えを支える根拠としてどの事例を取り上げるのか吟味するなどして、工夫をして書くことができるよう指導していくことが大切である。

【中学校数学】

○「自然数の意味を理解しているかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を上回った。この問題では様々な事象を数学的に考察し、表現する場面において必要とされる事象の特徴を的確に捉えることや自然数の意味を理解していることが分かる。

●「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 15.3％下回った。この問題は、二つの直線ＢＣと直線ＡＥが平行であることを三角形の合同を基にして、錯覚が等しいことを記述しているが、記述の表現が十分でないという基礎的・基本的な知識及び技能の不足がみられた。また、錯覚が等しい２直線が平行であることを根拠として、結論に導くことができていなかった。

●「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 14.5％下回った。条件を変えた場合に、事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がみられた。

〈指導にあたって〉

・事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導していくことが大切である。そのためには、２直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるといった構想を立てる活動を取り入れることが必要である。

・ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し、表現することができるように指導していくことが大切である。このように、図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして統合的・発展的に考察することができるようにしていく。

【中学校英語】

○「日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率とほぼ同等の結果であった。この問題は、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにすることが求められている。正答を選ん

だ生徒は、概要を構成する上で主となる情報を過不足なく含んでいる英文を、文章全体の大まかな内容であると判断している。このことから、短い文章の概要を捉えることができていると考えられる。

●「未来形（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 25.7％下回った。会話の流れから肯定文を書くこと、また、時制を判断し、未来表現の肯定文を書くことは理解しているが、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていないと考えられる。

●「情報を正確に聞き取ることができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 22.5％下回った。部屋の中の様子を描写する英語を聞き、They are sleeping という情報を聞き取ることはできているが、under the desk という情報を聞き取ることができていないと考えられる。または、位置に関する表現を十分に理解していないと考えられる。

●「『事実・情報を伝える』と『考えや意図を伝える』という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうか」をみる問題では、全国平均正答率を 20.5％下回った。事実や情報を伝えている I went there this summer with my family.という英文を、考えを伝える英文であると読み取っている。このことから、「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができていないと考えられる。

〈指導にあたって〉

・正確に書くためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。指導に当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して言語の働きを考えることが大切である。

・情報を正確に聞き取るためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。指導に当たっては、自分の置かれている状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられる。

・情報を正確に読み取るためには、単に語彙の意味や文法事項の形式が分かったり、英語を日本語に訳すことができたりするだけではなく、書かれている英文に含まれている情報を、事実や考え、気持ちなどに区別しながら読み進める技能を身に付けることが重要である。指導に当たっては、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することが大切である。

（２）今後の対策

【国語科教育充実のために】

〇国語科教育充実のために、計画訪問の際に、次のような内容で指導改善のポイントについて、助言を行っていく。

・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導。

・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導。

・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導。
・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする指導。

【算数科教育充実のために】

〇算数科教育充実のために、計画訪問の際に、次のような内容で指導改善のポイントについて、助言を行っていく。

・数量の関係を捉え、問題の解決に式を用いることができるようにする指導。
・予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べる活動。
・複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする指導。
・身の周りにある事象を図形として捉え、考察する活動。
・証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察する活動。

【英語科教育充実のために】

〇英語科教育充実のために、計画訪問の際に、次のような言語活動を継続的に実践するよう助言していく。

・既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動
・意味のある文脈を設定し、適切な表現を選択して書く活動
・自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる活動
・意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動
・思考の整理を促すワークシートなどを用いて、事実や考えなどを区別して読んだり書いたりする活動

３　児童生徒質問紙から見える傾向　※学習に対する質問を抜粋

（１）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

１．よくしている　２．ときどきしている　３．あまりしていない　４．全くしていない
５．その他　６．無回答　（%）

	【小学校】						【中学校】					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
高萩市	34.4	43.2	15.3	7.1	0.0	0.0	23.3	40.4	28.0	8.3	0.0	0.0
茨城県	34.1	43.3	17.8	4.6	0.0	0.0	20.1	41.9	28.2	9.8	0.0	0.1
全国	28.7	42.0	22.1	7.1	0.1	0.0	15.3	39.7	31.9	12.9	0.0	0.1

（２）学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

１．３時間以上　２．２時間以上３時間より少ない　３．１時間以上２時間より少ない
４．30 分以上、１時間より少ない　５．30 分より少ない　６．全くしない　7. その他
８．無回答

（%）

	【小学校】								【中学校】							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
高萩市	8.2	12.0	42.1	27.3	7.7	2.2	0.5	0.0	8.3	20.2	36.8	19.7	8.8	5.7	0.0	0.5
茨城県	9.7	14.5	36.4	27.9	9.0	2.4	0.0	0.1	8.3	23.1	37.2	19.1	8.3	3.9	0.0	0.2
全国	11.8	13.8	31.5	26.9	11.4	4.6	0.0	0.1	10.3	23.4	32.1	18.0	9.9	6.0	0.0	0.2

（３）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

１．４時間以上　　２．３時間以上４時間より少ない　３．２時間以上３時間より少ない
４．１時間以上２時間より少ない　５．１時間より少ない　６．全くしない　7. その他
８．無回答

（%）

	【小学校】								【中学校】							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
高萩市	4.9	7.1	12.6	46.4	23.0	6.0	0.0	0.0	7.3	9.3	23.8	30.1	30.1	20.2	0.0	1.0
茨城県	6.8	7.1	15.1	33.6	30.0	7.3	0.0	0.1	7.5	12.9	24.6	28.2	28.2	18.8	0.0	0.5
全国	7.9	5.4	11.4	27.8	33.7	13.8	0.0	0.1	6.8	11.5	21.7	25.3	25.3	21.7	0.0	0.4

（４）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどのくらいの時間、読書をしますか（電子図書の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

１．２時間以上　２．１時間以上２時間より少ない　３．30 分以上１時間より少ない
４.10分以上30分より少ない　５.10分より少ない　６.全くしない　7.その他　８.無回答　　（%）

	【小学校】								【中学校】							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
高萩市	12.6	9.3	23.0	22.4	14.2	18.6	0.0	0.0	7.8	9.8	15.5	29.0	8.3	29.0	0.0	0.5
茨城県	7.3	11.1	19.8	24.1	15.5	22.2	0.0	0.1	5.4	8.6	15.4	21.9	13.2	35.0	0.0	0.7
全国	7.6	10.9	18.8	22.7	15.4	24.5	0.0	0. 1	5.5	8.4	14.6	21.0	13.2	36.8	0.0	0.6

（５）学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

１．３時間以上　２．２時間以上３時間より少ない　３．１時間以上、２時間より少ない
４．30 分以上１時間より少ない　　５．30 分より少ない　　６．全く使っていない
７．その他　　８．無回答

（%）

	【小学校】								【中学校】							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
高萩市	3.3	7.1	17.5	25.1	21.9	25.1	0.0	0.0	1.0	4.7	6.2	19.7	28.5	39.9	0.0	0.0
茨城県	2.8	4.4	13.7	26.1	30.7	22.2	0.0	0.1	2.2	3.2	9.8	19.7	33.4	31.4	0.1	0.3
全国	2.9	3.9	11.1	23.2	32.4	26.4	0.0	0.1	2.1	2.9	8.4	17.8	34.1	34.3	0.1	0.4

（６）５年生（中学校１．２年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

１．発表していた　２．どちらかといえば発表していた　３．どちらかといえば発表していなかった　４．発表していなかった　５．考えを発表する機会はなかった　６．その他　７．無回答

（%）

	【小学校】							【中学校】						
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
高萩市	31.1	36.6	22.4	6.6	3.3	0.0	0.0	16.6	40.4	29.0	10.4	3.6	0.0	0.0
茨城県	23.6	38.2	25.1	10.2	2.9	0.0	0.1	21.5	39.0	25.6	10.8	2.9	0.0	0.1
全国	24.8	38.9	23.9	9.8	2.5	0.0	0.1	21.9	40.2	23.6	11.2	2.8	0.0	0.1

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた割合は小学校で 77.6%、中学校で 63.7%と全国平均より高く、中学校では昨年度より 18.6%上昇したことから、家庭学習の習慣が身に付いてきていると考える。しかし、まだ小学校で 22%、中学校で 36%の児童生徒が、「あまりしていない」、「全くしていない」と答えているため、今後は、宿題のみではなく、自分で計画を立てて学習できる力を身に付ける必要がある。学校の授業以外の平日、土日の１日あたりの学習時間は、全国平均と比べて児童生徒共に高く、昨年度よりも小学校では 20%、中学校では、5%上昇した。家庭学習の習慣を身に付けるためには、小学生の段階から、計画を立てて学習する時間を増やしていけるよう指導していく。(1)(2)(3)

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどのくらいの時間、読書をしますか」という質問に対しては、１時間以上読書をすると答えた児童生徒の割合は、小学校で 21.9%、中学校で 17.6%と全国平均よりも高かった。現在、全児童生徒に１人１台タブレットが貸与され、市立図書館の電子図書が、学校でも利用できるようになったことも一因だと考える。県の事業である「みんなにすすめたい１冊の本推進事業」の推進とともに、日々の生活の中で、読書に親しむことのできる児童生徒の育成を目指したい。(4)

○「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）１日当たりどのくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使っていますか」という質問に対しては、１時間以上ＰＣやタブレットを勉強のために使うと答えた児童生徒の割合は、小学校で 27.9%と全国平均よりも 10%高い結果、中学校では 11.9%と全国平均より低い結果となった。また、「５年生（中学校１・２年生）

までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問に対しては、「発表していた」、「どちらかといえば発表していた」と答えた児童生徒の割合は、小学校で67.7％と全国平均より高く、中学校では、57％で全国平均より低い結果となった。現在、小中学校共に授業の中でタブレット等を積極的に活用しているが、さらなる効果的な活用方法についての研修を行うなど、教員のICT活用指導力の向上を図ることで、児童生徒の知識定着や技能習熟を図っていきたい。(5)(6)

※注)(　)内の数字は、質問番号